

---

**議題** **企業会計基準委員会の最近の活動状況**

---

1. 前回基準諮問会議(第 19 回、2013 年 11 月 20 日開催)後の企業会計基準委員会(ASBJ)の活動状況は次のとおりである。

**1. 日本基準****会計基準等の公表**

2. 2013 年 12 月 25 日に実務対応報告第 30 号「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」を公表した(資料(2)別紙 1)。

これは 2012 年 11 月 22 日に開催された第 255 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より当委員会に新規テーマの提言がなされたテーマであり、2013 年 7 月 2 日に公開草案を公表したうえで最終公表を行っている。

3. 2014 年 2 月 25 日に企業会計基準公開草案第 56 号「四半期財務諸表に関する会計基準(案)」及び企業会計基準適用指針公開草案第 51 号「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針(案)」の公開草案を公表した(資料(2)別紙 2)。

これは、2013 年 9 月に改正された企業会計基準第 21 号「企業結合に関する会計基準」において暫定的な会計処理の確定の取扱いが改正されたことに伴い、所要の改正を行うものである。

4. 2014 年 3 月 7 日に実務対応報告公開草案第 40 号「リース手法を活用した先端設備等投資支援スキームにおける借手の会計処理に関する実務上の取扱い」の公開草案を公表した(資料(2)別紙 3)。

これは 2013 年 12 月 12 日に開催された第 277 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より当委員会に新規テーマの提言がなされたテーマである。

**上記以外の会計基準等の開発の状況****現在開発中のテーマ**

5. 2014 年 1 月より、現在、日本公認会計士協会で作成されている税効果に関する実務指針について、ASBJ に移管すべく税効果会計専門委員会において審議を開始している。

これは 2013 年 12 月 12 日に開催された第 277 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より当委員会に新規テーマの提言がなされたテーマである(資料(2)別紙 4)。

6. 実務対応報告第 18 号「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」について、実務対応報告専門委員会において、本実務対応報告の当

面の取扱いに示した項目に追加すべき項目があるか否かを中心とした見直しの検討を行っている。

これは2013年3月29日に開催された第261回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より当委員会に新規テーマの提言がなされたテーマである。

### 今後、検討を行う予定のテーマ

7. 以下については、基準諮問会議より新規テーマとしての提言を受けており、今後、検討を行う予定である。
  - 連結納税制度と企業結合に関する税効果会計の整合性
  - 「企業結合に関する会計基準」に係る条件付取得対価の取扱い

### 新規テーマに関する評価（基準諮問会議からの依頼）

8. 前回の基準諮問会議において「商品デリバティブ取引に係るヘッジ会計関連規定」について実務対応専門委員会に新規テーマの評価依頼がなされており、実務対応専門委員会（金融商品専門委員会との合同会議）を3回開催した。詳細については、資料(1)-2のとおりである。

## II. IFRS のエンドースメント手続

9. 2013年6月19日付で企業会計審議会から公表された「国際会計基準（IFRS）への対応のあり方に関する当面の方針」を踏まえ、平成23年8月よりIFRSのエンドースメント手続をIFRSのエンドースメントに関する作業部会において検討している。
10. 現在まで、9回の作業部会が開催され、IASBが設定した個々の会計基準等<sup>1</sup>について、削除又は修正することなしに採択可能か否か、また、どのような項目について、ガイダンスや教育文書等の作成が必要かについて、「検討が必要な項目の候補」を約30個抽出し、検討を進めている（資料(2)参考資料を参照のこと。）。
11. 最初のエンドースメント手続については、検討開始から概ね1年を目途に完了することを目標としており、今後、公開草案の公表を行う予定である。

## III. 国際対応

### 当期純利益に関する意見発信

12. IASBは、現在、概念フレームワークの見直しを行っており、当期純利益/その他の

---

<sup>1</sup>当初は、2012年12月31日現在IASBにより公表されている会計基準、解釈指針を対象に検討を行っている。

## 資料(2)

包括利益（OCI）の取扱いが一つの焦点となっている。会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）の第3回会議が、2013年12月5日、6日にロンドンで開催され、当委員会から西川委員長が同会議に出席し、同会議において、純損益・OCI・測定に関する報告を行い議論がなされた（資料(2)別紙5及び別紙6）。

当期純利益の取扱いについては、我が国の関係者の関心も高く、今後も、意見発信を続ける予定である。

### のれんの償却に関する意見発信

13. 各国の会計基準設定主体が参加する会計基準設定主体国際フォーラム（International Forum of Accounting Standard Setters：略称 IFASS）が2014年3月6日、7日に、ニューデリー（インド）にて開催され、当委員会からも同会議に出席した。のれんについては、現在、欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）とイタリア会計基準設定主体（OIC）と共同でリサーチを行っており、同会議で報告を行っている。

### その他の国際会議の参加

14. 上記以外に、以下の国際会議に参加している。
  - アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）年次総会（2013年11月26日から28日、コロンボ）
  - IFRS Regional Policy Forum（2014年3月8日、9日、ニューデリー）

### コメント・レターの提出

15. 前回の基準諮問会議の後、IASB及びFASBの公開草案等に対する下記のコメント・レターを提出した。
  - IASB ディスカッション・ペーパー「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」に対するコメント（2014年1月17日提出）

### その他

16. 2014年1月21日及び22日にEFRAGのFrançoise Flores議長が来訪され、意見交換を行っている。
17. 2014年2月5日及び6日にIASBのHans Hoogervorst議長が来訪され、意見交換を行っている。来日に合わせ、Hans Hoogervorst議長による講演及びIASBの鸞地理事による最近のIASBの基準開発の動向に関するオープン・セミナーを2014年2月5日に東京にて開催した。
18. 上記に加え、IASB関係者やEFRAG関係者との間で、定期的にテレビ会議を開催し、

## 資料(2)

意見交換や情報交換を行っている。

以 上